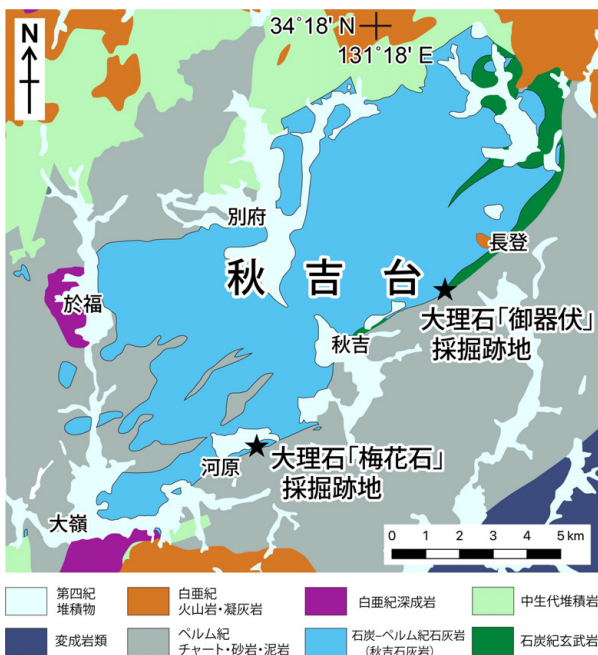


山口県美祢市産大理石石材「御器伏」「梅花石」： 秋吉石灰岩形成最初期の石灰岩

中澤 努¹⁾・藤川 将之²⁾・上野 勝美³⁾

山口県美祢市の秋吉石灰岩は、石炭-ペルム紀にパンサラッサ海のホットスポット火山を基盤として形成された孤立型の礁成石灰岩であり、不純物の極めて少ない灰白色の石灰岩からなることを特徴とする (Sano and Kanmera, 1988)。しかし火山体を基盤とすることから、礁形成の最初期、すなわち石灰岩の基底部には、火山碎屑物を含むウミユリに富む石灰岩がみられる。山口県美祢市の「御器伏」「梅花石」と称される銘柄の石材はこれに相当する石灰岩であり (中澤ほか, 2016)、後期古生代の礁発達プロセスを知るうえで極めて重要な石灰岩である。



第2図
「御器伏」の採掘跡地付近に現在も残される原石の角材。昭和30年頃まで採掘が行われていたようである。

(左) 第1図 秋吉台およびその周辺の地質図。

秋吉台の南東～東縁に分布する玄武岩とその層序学的上位にあたる秋吉石灰岩との境界付近に火山碎屑物を含むウミユリ石灰岩が見られる。大理石石材「御器伏」「梅花石」の産地はまさにその層準である。20万分の1日本シームレス地質図V2 (産総研地質調査総合センター, 2022) を簡略化して作成。



第3図 「御器伏」「梅花石」を使用した工芸品および建築物の内装。

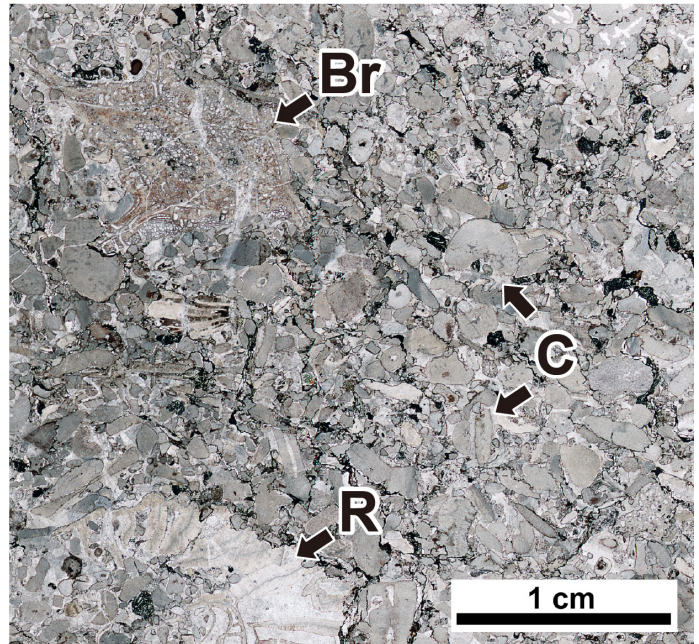
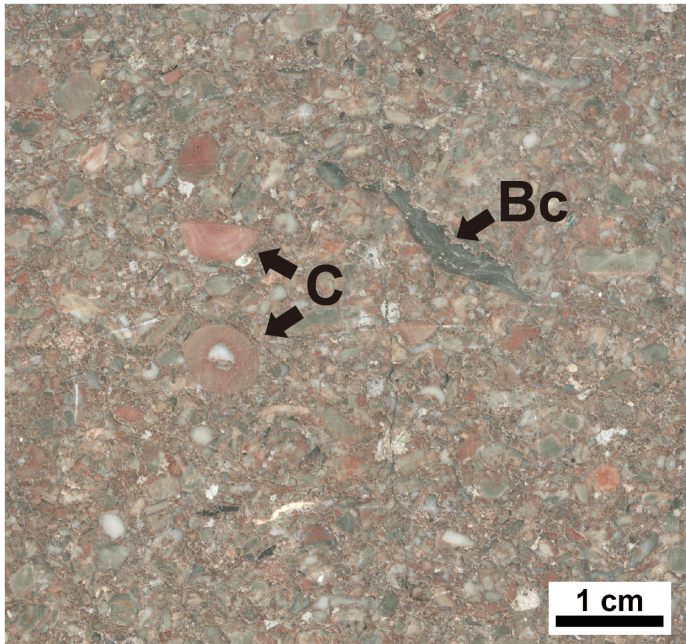
「御器伏」「梅花石」は花瓶などの工芸品や建築用石材として使用されているのを見かける。美祢市立秋吉台科学博物館2階の中木には「御器伏」あるいは「梅花石」が使用されている (左写真の矢印部分；腰壁の石材は同じく秋吉石灰岩から採掘された「聖火」)。「梅花石」産地近くの民家には、花瓶 (中写真) のほか、玄関の床板 (右写真) にも「梅花石」がふんだんに使用されていた。撮影協力: 梶岡春治氏 (中・右写真)

1) 産総研 地質調査総合センター地質情報基盤センター

2) 美祢市立秋吉台科学博物館 〒754-0511 山口県美祢市秋吉町秋吉

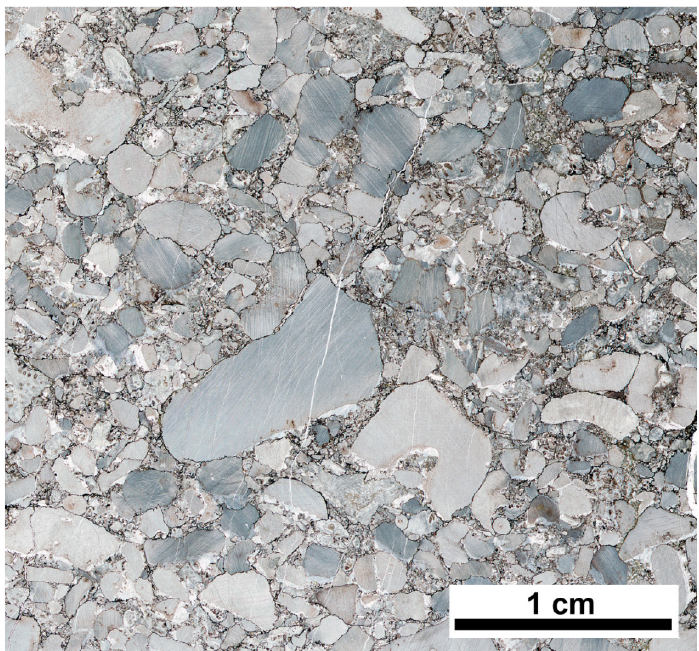
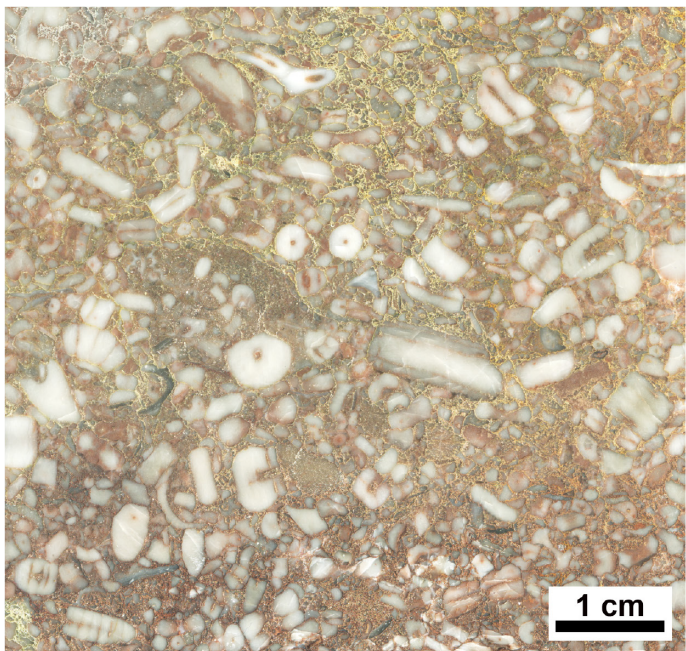
3) 福岡大学理学部地球圏科学科 〒814-0180 福岡県福岡市城南区七隈

NAKAZAWA Tsutomu, FUJIKAWA Masayuki and UENO Katsumi (2023) Stone material (limestone) "Okibuse" and "Baikaseki" from Mine City, Yamaguchi Prefecture: The lowermost part of the Carboniferous-Permian Akiyoshi Limestone.



第4図 「御器伏」の研磨標本(左)と薄片写真(右).

秋吉石灰岩基底部から採掘された大理石石材「御器伏」「梅花石」には、石灰岩形成最初期(前期石炭紀(ミシシピアン亜紀)トルネーション～ピゼーアン期)の礁生物群集を観察することができる。この時期には、火山体を基盤として、ウミユリ(C)を主体とし、コケムシ(Br)や腕足類(Bc)、単体四射サンゴ(R)などを含む、先駆的な礁生物群集が繁栄し、礁形成の下地をつくった。火山砕屑物を含むため、研磨標本では全体に赤褐色を呈する。ウミユリ片も赤褐色に着色している。薄片でウミユリ片の間に黒褐色にみえる部分はスタイロライトとしてシーム状に残留した火山砕屑物。



第5図 「梅花石」の研磨標本(左)と薄片写真(右).

「梅花石」「御器伏」に含まれる火山砕屑物は、赤褐色を呈することが多いが、風化の程度により、黄褐色～暗緑色を呈することもある。特に「梅花石」は色調の変化が著しい。また、採取した試料を観察した限りでは、「梅花石」は「御器伏」よりも粗粒なウミユリ片を多量に含む。ウミユリは現世では深海に棲む生物であるが、後期古生代には浅海に普通にみられ、その遺骸片は石灰岩の主要な構成要素である。

文 献

- 中澤 努・井川敏恵・上野勝美・藤川将之(2016) 国内産古生代大理石石材の岩相とその成因. 石灰石, no. 399, 20-43.
- Sano, H. and Kanmera, K. (1988) Paleogeographic reconstruction of accreted oceanic rocks, Akiyoshi, southwest Japan. *Geology*, 16, 600-603.
- 産総研地質調査総合センター(2022) 20万分の1日本シームレス地質図V2. <https://gbank.gsj.jp/seamless> (閲覧日: 2023年8月31日)

(受付: 2023年10月5日)